

## 平成27年度新体制スタート！

### ～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会（略称鹿施連）～

平成27年6月4日（木）、ハートピアかごしまにて、平成27年度評議員会（総会）が開催されました。鹿施連は平成25年度より、会務の実際を家族会の会員で担おうと、事務局を会員宅に置き活動を始めました。その間、様々な課題を抱えながらも会員初め、関係団体のご理解・ご協力のもと、知的障害者が心豊かに生活できるように諸活動を推進してきました。今回の評議員会は、この2年の総括と今後の活動を展望する大変重要な位置づけとなりました。



鹿施連会長 兼廣倫生氏の開会の挨拶に続いて、来賓として、鹿児島県知的障害者福祉協会会長 中村邦彦氏と鹿児島県手をつなぐ育成会理事長 別府則夫氏の挨拶があり、鹿施連の活動の輪の着実な広がりや障害者活動に携わる一員としての思いを共有することができました。

その後、平成26年度事業報告・収支決算報告・監査報告等を提案・審議し、全員一致で原案通り承認されました。続いて、27年度の事業計画・収支予算（案）について、基本方針や具体的な取り組みが報告され、質疑応答・討議の後、多数で承認されました。また、会則の第2章・・・支部の「地区割り」と第5章・・・「会費年額1000円増額」の改正案、27年度～28年度の役員体制も提案され、いずれも承認されました。

最後に、出席者全員で、今後の活動の一層の充実・発展を確認し合い、評議員会（総会）の幕を閉じました。尚、具体的な取り組みは以下の通りです。

#### （1）組織の点検と強化

- ①執行体制の整備 ②支部組織の再編 ③組織の拡大

#### （2）研修活動の推進

- ①研修会の開催 ②家族会並びに施設職員研修会の開催（共催） ③支部研修会の開催

#### （3）啓発活動の推進

- ①広報誌「かごつま家族ねっと」の年2回の発行（第6号、第7号）

#### （4）全施連、九州協議会との連携の深化

- ①全施連総会・大会への参加 ②九州協議会・勉強会への参加

#### （5）関連団体との連携の推進

- ①鹿児島県知的障害者福祉協会との連携  
②鹿児島県手をつなぐ育成会との連携

**尚、27年度の事業計画の予定は次の通りです。（注 期日は都合により変更になります）**

（年5回の理事会・年2回発行の会報については割愛しました。）

27. 6. 4（木）	平成27年度評議員会（総会）	ハートピアかごしま
27. 6. 9（火）～10（水）	全国知的障害者家族会連合会社員総会	大阪市
27. 7. 16（水）～17（木）	全施連九州協議会	大分市
27. 10. 20（火）～21（水）	全国知的障害者家族会連合会全国大会	横浜市

27. 11. 12 (木)	平成27年度鹿施連研修会	ハートピアかごしま
28. 1. 16 (土)～17 (日)	家族会並びに施設職員研修会	ホテル京セラ
28. 2	全国知的障害者施設家族会連合会理事会	未定

## ～鹿児島県知的障害者施設家族会連合会新役員(平成27～28年度)～

役職名	氏名	施設名	支部名	役職名	氏名	施設名	支部名
会長	兼廣倫生	あおいとり	鹿児島	会計	内村浩子	セルブ鹿児島	鹿児島
副会長	伊尻幸雄	いずみ園	北薩魔	監事	中村俊久	しょうぶ学園	鹿児島
	野間口秀世	吉田愛青園	鹿児島		前田隆幸	セルブいしき	鹿児島
				事務局長	岡元鐵哉	サポートなごみ	鹿児島

### ～各地区支部の理事名～

支部名	役職名	氏名	施設名	支部名	役職名	氏名	施設名
鹿児島	支部長	兼廣倫生	あおいとり	大隅	支部長	宮園俊郎	和光学園
	副支部長	野間口秀世	吉田愛青園		副支部長	竹下鈴代	和光学園
			川口正一	ゆうかり学園	奄美・種子屋久	支部長	松下正治
南薩摩	支部長	杉 薩男	光の里	副支部長		生元為市	滝の園
	副支部長	小城 守	みさかえ学園				
北薩摩	支部長	伊尻幸雄	いずみ園				
	副支部長	二見誠弘	薩来園				

## 各支部の活動～厳しい状況ですが心をひとつに頑張っています～

### 【鹿児島市地区支部】

年6回の理事会を開催し、支部活動の深化を図るとともに、情報交換・研修の場ともしている。各種の研修会にも代表を送っている。また、支部独自で年一回の研修会を開催し、終了後、支部管内の施設長と懇親の場を設け、連携を密にしている。

県施設家族会連合会のけん引役としての自覚をもって活動を展開している。

### 【南薩摩地区支部】

南薩摩地区の支部運営委員会と家族会連合会支部会を合同で開催している。また、国や県の施設家族会連合会の活動の様子を知らせるために、県施設連理事会の資料を16施設に送付している。

交流の場として、利用者は応援の形ではあるが、施設職員バレーボール大会を毎年開催している。

### 【北薩摩地区支部】

施設家族会連合会の支部会議を開催し、活動状況を発表している。また、鹿児島県知的障害者施設家族会連合会の理事会の報告を行い、情報交換や意見交換を行っている。各種の研修会にも参加している。

### 【大隅地区支部】

家族会並びに施設職員研修会に参加し、家族会活動の報告を行っている。参加施設の減少に伴い支部会の活動が困難な状況にある。今年度は、年2回の支部会議を開催し、参加施設の啓発に取り組んでいきたい。

### 【奄美・種子屋久地区支部】

奄美・・・宇検村において、大島地区障害者ゆうあいスポーツ大会が開催され、5施設が参加した。昼食時に県家族会連合会の活動報告を行った。

種子屋久・・・あかつき園では、老人ホーム南界園の美化作業を行い、その後ゲートボール等で親睦を深めた。たちばな園では、鹿児島市で行われた県障害者スポーツ大会が開催され、応援を兼ねた旅行に参加し、有意義に過ごせた。

奄美・種子屋久と遠く離れているので、それぞれ独自の活動を展開している。次年度からもこのような形で



活動を進めていくことを意思統一している。

## 「全施連社員総会」報告

～27年度の方針定まる～

平成27年6月9日（火）～10日（水）の両日、一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会社員総会が大阪市で開催されました。

総会初日は、冒頭、由岐会長の挨拶があり、知的障害者を取り巻く顕著な問題として次の3点にふれました。

- ①虐待防止法が成立したが「虐待」はなくなる。国の制度や施設の在り方、職員の研修や資質等に対し敏感に反応していくことが必要である。
- ②福祉分野へ、一般企業からの経営参加が顕著である。ただ、障害特性さえ理解していない者が経営者・従業員となっている実態があり、何らかの対策・規制が必要である。
- ③国の施策は密接に福祉政策、障害者施策に関連するので、時の政権の動向・方向性を見極める必要がある。また、私たちの運動は、障害のない人からも共感を得られる様に、世の中の動きと障害者への施策について両にらみで対応していく必要がある。

次に、平成26年度の事業報告・会計・会計監査報告が提案され、質疑応答の後、承認されました。引き続いて、平成27年度の事業計画案・予算案・役員改正案が提案され、真摯な討論の後承認されました。

平成27年度の事業計画に関して以下の点が強調されました。

### （1）障害者福祉施策に対して

- ①障害支援区分・サービス等利用計画については、制度活用初年度であり進捗状況を見守る。
- ②意思決定支援・成年後見制度については、知的障害者を護る立場から改革を訴えつつ効果的利用を図る。
- ③65歳問題・配置医師問題への対応、虐待問題に果たす家族会の役割、差別解消法とそれを具現化していく。今後の運動の在り方など、積極的に取り組む。

### （2）全国障害者施設家族会連合会の「提言」について、具体化するために学習を深める。

### （3）平成27年度の具体的活動

- ①全施連の提言「家族が求める暮らしのあり方」を基盤に、内外に周知し賛同者を増やす。
- ②障害者総合福祉法を検証する。
- ③全施連「提言」に照らし、制度の不備を明らかにする。

### （4）さらなる具体的活動

- ①研修計画・・・全国大会（神奈川大会）の開催、理事研修会  
・ブロック研修会の開催

### ②他団体との連携強化

- ・日本障害者協議会、日本知的障害者福祉協会とのいっそうの連携強化を図る。
- ・全日本手をつなぐ育成会、入所施設存続を訴える重症心身障害児を守る会、全国障害者とともに歩む兄弟姉妹の会、自閉症協会等全施連と意見を同じくする団体との連携を構築する。
- ・各都道府県においても、上記のそれぞれの組織と連携を強化する。

総会2日目は、情報交換の場として位置付け、全施設連副理事長 南守氏から、「家族会の究極の存在意義・・・親亡きあとの子どものありよう～終の住処＝入所施設～」について提案がありました。

氏は、今各地で問題となっている65歳問題、配置医師問題、90日問題を中心に話をされ、今までの到達点や課題について言及されました。提案を基に、兵庫県から、施設内グループホームの運営の経験、高知県から、補足給付費の問題、鹿児島県全施連会長兼 倫生氏より組織拡大の経験と提案など貴重な意見が出されました。

締めくくりとして、岩本副理事長より、「出された意見を踏まえお互いを尊重し合いながら、知的障害者の幸を願って活動を進化させよう」とのまとめがあり、社員総会の幕を閉じました。





一般社団法人 全国知的障害者施設家族会連合会

第11回全国大会 in 神奈川

大会テーマ 知的障害のある人にとって最適な生活の場とは

～障害の多様性さらにはライフステージに応じた生活の場を考える～

期日：平成27年10月20日（火）～21日（水）

会場：神奈川県 横浜市 ローズホテル横浜 鹿施連会長 兼広 倫生が発表する予定です

## 第9回全施連九州協議会の報告



平成27年7月15日（水）から2日間の日程で大分市にて開催されました。沖縄を除いて九州各県より23名（鹿児島からは3名）が参加しました。「知的障害者・児」の安心、安全で快適な暮らしを目指して活動する・・・という当初の目的を実現すべく、情報や意見の交換・今後の方針など活発な議論がなされました。

第1日目は、各県の活動報告がありました。

福岡県からは、24時間一貫した快適な入所施設の新設に取り組んでいることや、組織の拡大・強化、行政機関や議会への陳情と請願など多様な活動の一端が報告されました。

佐賀県からは家族会連合会に参加しているのが数施設にとどまっていることや、連携が希薄であること、熊本県からは、県・障害者団体との意見交換、施設協会職員・家族会合同研修会などを行っていること、宮崎県からは、家族会加入11施設60名であることや県議会議員との意見交換会を催していることなどが報告されました。

鹿児島県からは、本年度の総会で確認された事業報告にもありますように、多岐多様な活動がなされていることが報告されました。また、課題として ①家族会連合会の存在の意義の浸透 ②県内5支部の活動の活性化 ③単位家族会の活動の充実 ④事務局体制の運営と構築 ⑤行政機関や議会への陳情や請願活動 ⑥ 直面する具体的な課題に対する対応等について、具体例をあげて報告しました。

各県の報告後意見交換となり、全国統一請願行動への取り組みを九州ブロックや各県でどうするか、等について積極的な議論が交わされました。

第2日目は、1日目に触れる時間のなかった①会報について ②会費について ③配置医師問題について ④今後の九州協議会の当番県について（28年熊本、29年長崎、30年佐賀、31年鹿児島、32年宮崎、33年福岡）等について報告や意見交換がありました。

最後に、各県の実態が多様であることや九州協議会の存在の大切さ等について確認し合い、「知的障害者・児」の安心安全で快適な暮らしを目指し活動することを誓って会の幕を閉じました。



本の紹介

書名 『僕らがいちばん安心できる場所』

発行 MOKU 出版

東京多摩学園ものがたり

著者 山下 更生・ふるさと福社会

\* 著者の山下更生さんは1934年生まれで鹿児島県出身。早大卒業後、都庁に勤務。次男聡君が生後2か月の時、手術時の全身麻酔が原因で最重度の障害児に。現在、ふるさと福社会顧問・名誉園長。

山下さんには、11月12日（木）に開催される県施設家族会連合会研修会の講師をお願いしてあります。

## 全施連の活動のようすをお確かめください。

全国知的障害者施設家族会連合会の活動のようすが下記に紹介されています。

ホームページ

<http://zensiren.web.fc2.com/> をご覧ください

【編集後記】会報「かごつま家族ねっと」第6号をお届けします。今回は各種の総会、大会等の記事が中心となっていました。次号では、各地区支部の様子や単位施設家族会の活動もお伝えします。